

第 2 回佐倉市におけるこれからの学校のあり方懇話会 － 児童生徒の減少に伴う影響に関すること－

令和 6 年 10 月 1 0 日（木）

1 5 : 0 0 ～ 1 7 : 0 0

佐倉市役所 議会棟 第 3 委員会室

1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(1) 現状整理

- ・ 児童生徒数、学級数の将来推計 2
- ・ 教員への影響 6
- ・ 国の示す学級数の標準規模 14

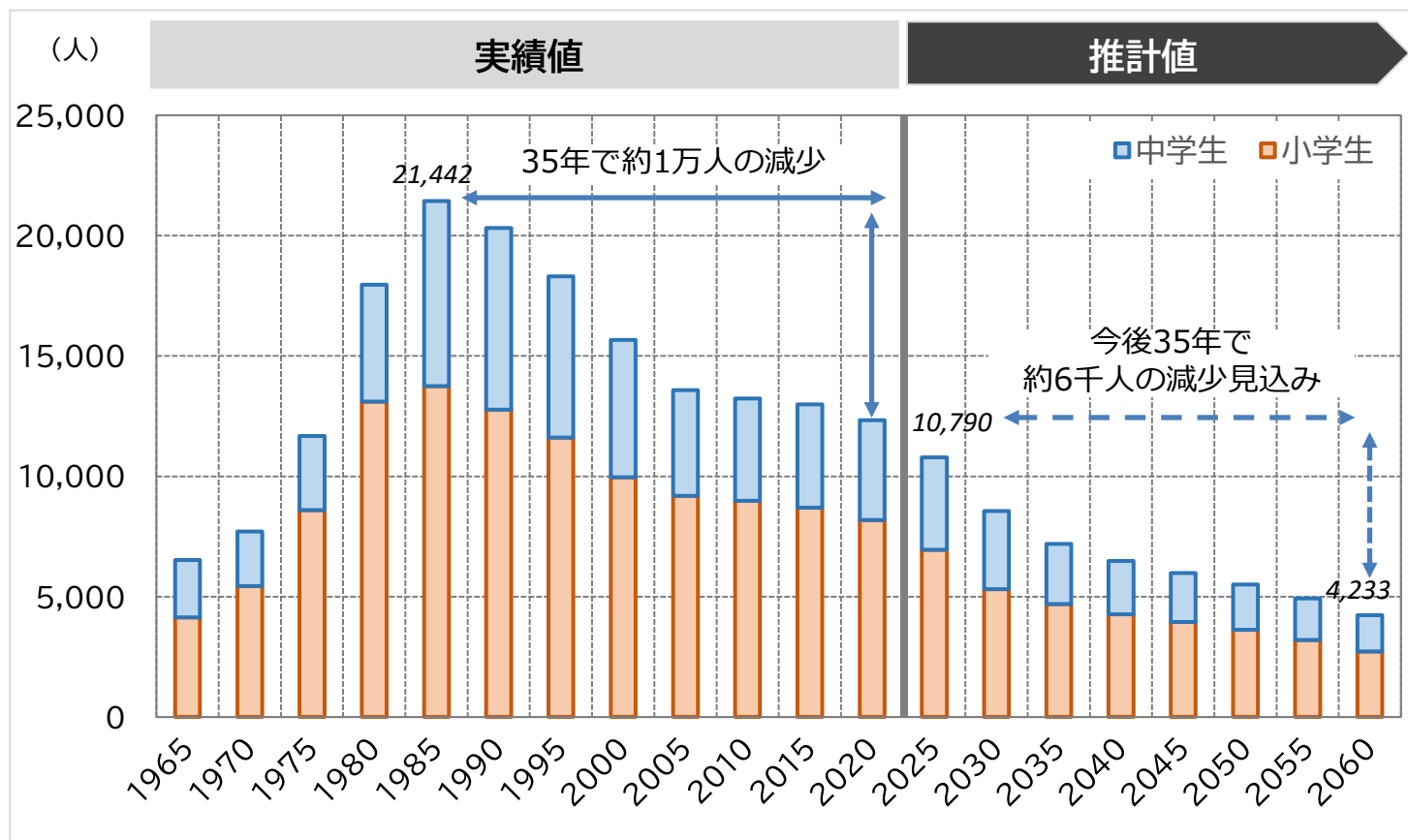
(2) 課題整理

- ・ 児童生徒の減少が及ぼす影響（効果と課題） 16
- ・ 『望ましい未来』と『避けたい未来』 17

1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(1) 現状整理～児童生徒数、学級数の将来推計～

児童生徒数の実績値と将来推計値



本市の児童生徒数は1985年をピークに、2024年までに約11,000人（1/2程度）まで減少し、2060年には約4,200人（ピーク時の1/5程度）に減少する見込みです。

1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(1) 現状整理～児童生徒数、学級数の将来推計～

児童数及び学級数の将来推計値

		佐倉小	内郷小	臼井小	印南小	千代田小	上志津小	志津小	下志津小	南志津小	根郷小	和田小	弥富小
実績	2024	530	161	236	158	281	356	365	242	315	443	38	49
		20 (3)	9 (3)	14 (4)	8 (2)	13 (3)	17 (5)	15 (3)	14 (3)	16 (4)	19 (4)	7 (2)	8 (2)
推計値	2030	369	115	172	132	206	291	295	149	211	273	29	35
		15 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	11 (2)	15 (3)	13 (2)	8 (2)	11 (2)	14 (2)	8 (2)	8 (2)
	2040	353	88	145	83	176	269	275	121	180	216	22	32
		14 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	15 (3)	14 (2)	8 (2)	8 (2)	10 (2)	8 (2)	8 (2)
	2050	322	65	107	58	170	202	267	91	191	153	14	26
		14 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	14 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
	2060	246	51	72	39	141	145	220	60	159	96	9	17
		14 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	11 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)

		井野小	佐倉東小	西志津小	小竹小	間野台小	王子台小	青菅小	寺崎小	山王小	染井野小	白銀小	合計
実績	2024	723	210	727	320	457	306	528	489	145	223	206	7,508
		27 (5)	10 (3)	30 (6)	16 (4)	19 (5)	15 (3)	21 (4)	23 (6)	8 (2)	11 (2)	12 (4)	352 (82)
推計値	2030	464	208	545	210	342	295	255	361	114	130	116	5,317
		19 (2)	10 (2)	21 (3)	11 (2)	15 (3)	13 (2)	12 (2)	15 (3)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	267 (50)
	2040	388	192	368	135	311	237	178	188	81	133	97	4,268
		14 (2)	8 (2)	14 (2)	8 (2)	15 (3)	13 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	229 (48)
	2050	327	177	268	116	282	198	188	181	62	96	62	3,623
		14 (2)	8 (2)	14 (2)	8 (2)	14 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	214 (46)
	2060	240	142	169	93	227	147	157	133	45	66	43	2,717
		13 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	12 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	202 (46)

※ () 内の数字は特別支援学級のクラス数 (内数) ※着色は単学級を表す

2040年には小学校のうち半分以上の15校が単学級となるほか、2060年には19校が単学級となる見込み。

1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(1) 現状整理～児童生徒数、学級数の将来推計～

生徒数及び学級数の将来推計値

		佐倉中	志津中	上志津中	南部中	臼井中	井野中	佐倉東中	臼井西中	西志津中	臼井南中	根郷中	合計
実績	2024	444	686	300	166	323	504	242	259	445	333	222	3,924
		17 (3)	25 (6)	12 (3)	8 (2)	13 (3)	18 (3)	10 (2)	11 (2)	16 (3)	12 (2)	9 (2)	151 (31)
推 計 値	2030	345	533	237	141	296	422	215	204	336	245	269	3,243
		13 (2)	19 (4)	10 (2)	8 (2)	11 (2)	14 (2)	9 (2)	9 (2)	12 (2)	10 (2)	11 (2)	126 (24)
	2040	286	401	154	87	202	219	160	161	204	216	132	2,222
		11 (2)	15 (3)	8 (2)	5 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	95 (23)
	2050	261	362	141	58	169	196	126	125	154	188	106	1,886
		11 (2)	15 (3)	8 (2)	5 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	5 (2)	92 (23)
	2060	213	286	118	36	140	183	102	92	104	150	92	1,516
		8 (2)	11 (2)	7 (2)	5 (2)	8 (2)	8 (2)	5 (2)	5 (2)	5 (2)	8 (2)	5 (2)	75 (22)

※ () 内の数字は特別支援学級のクラス数 (内数) ※着色は単学級を表す

中学校においても2060年には5校が単学級となり、クラス替えが出来なくなる推計が出ています。

1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(1) 現状整理～児童生徒の減少による効果と課題（一例）～

行事の教育効果



文科系行事では全員に発表の機会がある
一方で
運動系の行事では競争が少なく同じ結果になりがち

人間関係



人数が少ない分、親密な関係が築きやすい
一方で
人間関係が固定されがち、
一度人間関係が崩れると逃げ場がない

学習面



先生の細やかな指導が期待できる
一方で
協働的な学習で取り上げる課題に制限がある、
多様な考え方に触れる機会が少ない

教員



生徒一人一人の状況を把握しやすい
一方で
1人にかかる業務負担が大きく疲弊してしまう

1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(1) 現状整理～教員への影響～

学級編制基準の整理～標準人数～

学級数が減少することが教員にとってどのような影響を与えるかを整理するために、まずは学級編制基準を整理します。

学年区分	1クラスあたり人数（標準）	弾力的取扱い
小1～小5	35人	
小6、中2、中3	40人	38人
中1	40人	35人

千葉県では1クラスあたりの標準人数※¹と、弾力的取扱い※²を上記の通り定めています。

【※1 標準人数とは】

1 学級当たりの人数の上限のこと。各学年の学級数は、総人数を標準の人数で除して得た数（1未満の端数切り上げ）を原則とします。

例）A中学校1年生の場合

65人の学級 = $65 \div 40 = 1.63 = 2$ クラス（32人、33人）

122人の学級 = $122 \div 40 = 3.05 = 4$ クラス

（30人、30人、31人、31人）

1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(1) 現状整理～教員への影響～

学級編制基準の整理～弾力的取扱い～

学年区分	1クラスあたり人数（標準）	弾力的取扱い
小1～小5	35人	
小6、中2、中3	40人	38人
中1	40人	35人

※2 弾力的取扱い

学校ごとの実情に応じて、児童生徒に対する教育的配慮の観点から、市町村別の教職員定数等の範囲内で、1学級あたりの上限人数の弾力的な運用を認めるもの。

例) A中学校1年生における弾力的取扱いの例

110人の学級 = $110 \div \underline{40} = 2.75 = 3$ クラス
(37人、37人、36人)

弾力的取扱いの場合 = $110 \div \underline{35} = 3.14 = 4$ クラス
(28人、28人、27人、27人)

これを実施した場合、1クラスあたりの人数が少なくなり、きめ細やかな指導が可能になるメリットが出る。

1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(1) 現状整理～教員への影響～

学級編制基準の整理～弾力的取扱い～

その他の弾力的取扱いの事例



中学1年時に生徒数が81人で3学級としていたところ、進級時に1人が転出してしまったため2学級となるところ、教育的配慮から3学級を維持する場合

中学3年時に生徒数が80人で2学級としていたところ、年度途中で1人が転入してきたことにより、3学級になるところを卒業を控えていることへの教育的配慮から2学級のまま据え置く場合



1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(1) 現状整理～教員への影響～

教員の定数配置基準の整理

学級編制基準（1クラスあたりの上限人数）の整理ができたところで、次に学級に割り当てられる教員の配置基準を整理します。

千葉県が配置する教員の種別と配置数の考え方（一部抜粋）

○教員配置数

学級編成基準に基づく『標準学級』に1名の教員を配置する



○増置教員数

標準学級数－（肢体不自由、病弱・虚弱、弱視、難聴、言語の
特別支援学級＋院内学級）で算出



○加配教員

上記のほか、学校の実情を勘案して必要な人員を可能な範囲で配置する



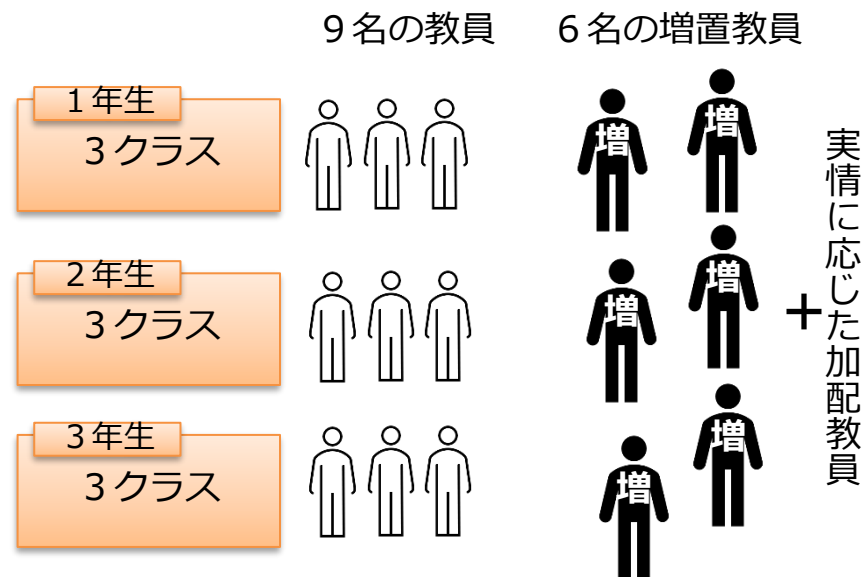
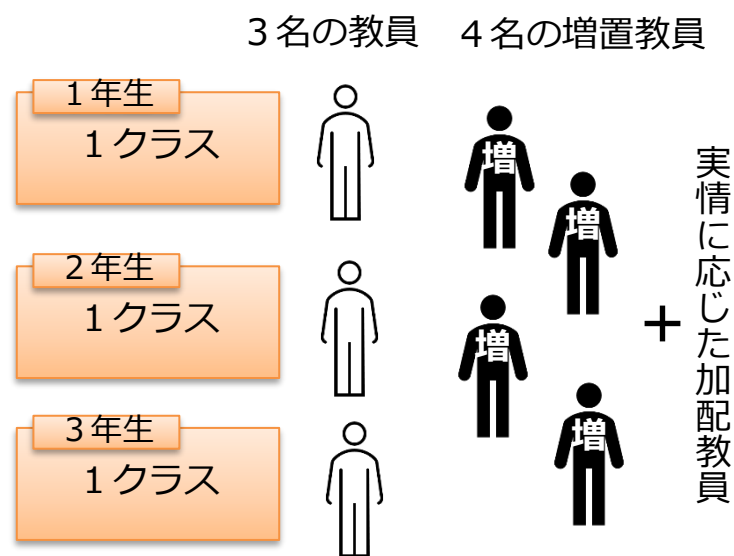
1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(1) 現状整理～教員への影響～

教員の定数配置基準の整理

学級数 3 クラスのA中学校の場合

学級数 9 クラスのB中学校の場合



中学校では、数学、英語のほか美術や保健体育を含め9教科を教科担任が教えるが、これを上記の人数で回していく必要がある。

1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(1) 現状整理～教員への影響～

教員の定数配置基準の整理

免許外教科指導の増加

- ・ 1人の教員が複数科目授業を教えることで授業準備などの負担増
- ・ 市内においても、免許外教科指導が増加傾向にあります

担当業務の増加

- ・ 教科や学習指導、生活指導などといった学校運営上必要となる業務を1人の教員が複数受け持たざるを得ない状況

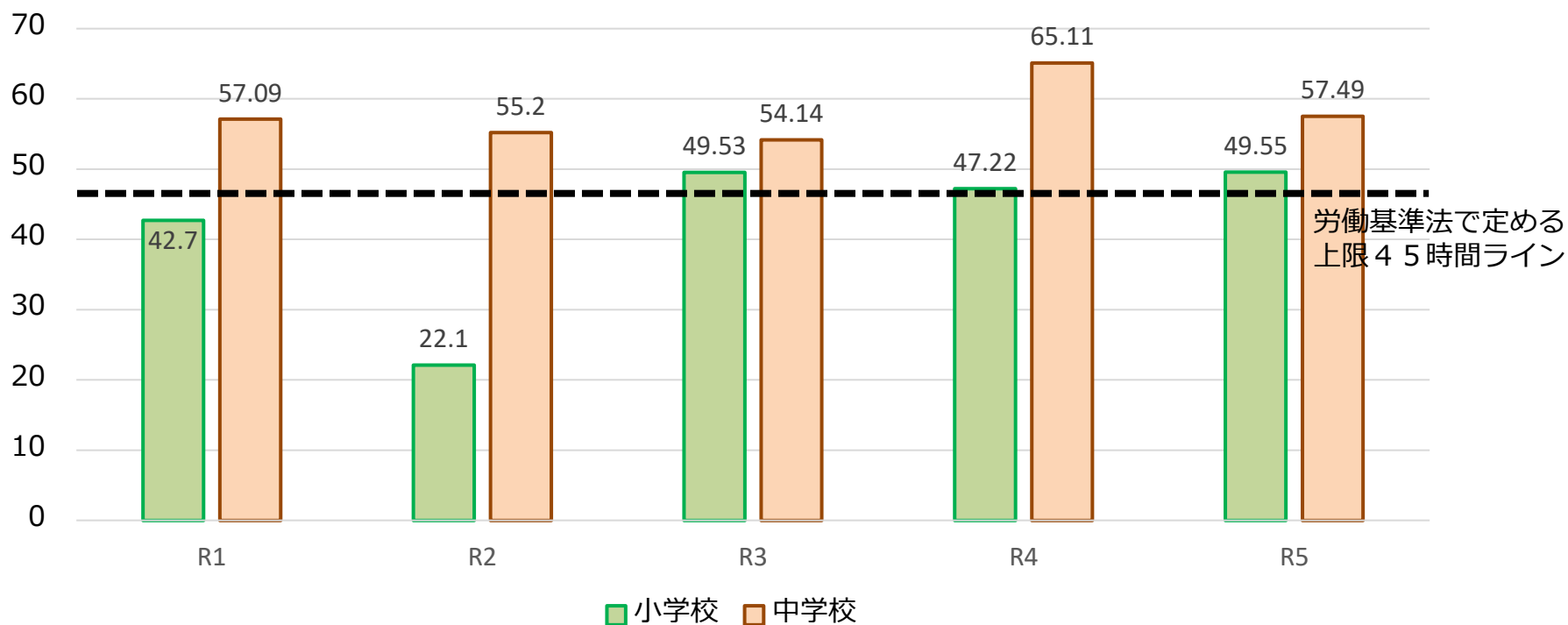
負担増から体調不良に陥る教員の増加

- ・ 1人あたりにかかる負担が増加することで、心身に不調をきたす教員が増加
- ・ 代替教員がすぐに補充されるわけではないので、現場ではさらに負担増が発生

1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(1) 現状整理～教員への影響～

市内小中学校教員 1 人当たりの月平均残業時間数（各年度2月）



1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(1) 現状整理～教員への影響～

令和5年度の残業時間（超過勤務者数）

		対象者数	45時間超え	80時間超え
小学校	教員	442人	224人	23人
	副校長・教頭	24人	20人	7人
	校長	23人	9人	2人
	小学校合計	489人	253人	32人
中学校	教員	285人	161人	32人
	副校長・教頭	12人	10人	5人
	校長	11人	4人	0人
	中学校合計	308人	175人	37人

1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(1) 現状整理～国の示す学級数の標準規模～

国の示す小中学校の学級数の考え方

【学校教育法施行規則第41条】

小中学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りではない。

これを小中学校にあてはめると、、、

- ・小学校では 1学年 2クラス～3クラス
 - ・中学校では 1学年 4クラス～6クラス
- が適正規模の1つの基準となります。

1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(1) 現状整理～国の示す学級数の標準規模～

市内小中学校の学級数の現状

(※着色は学校教育法施行規則第41条で規定する『標準』を下回る学校)

【佐倉、根郷、和田・弥富地区】

佐倉小	内郷小	根郷小	和田小	弥富小	佐倉東小	寺崎小	山王小	白銀小	佐倉中	南部中	佐倉東中	根郷中
17	6	15	5	6	7	17	6	8	14	6	8	7

【臼井・千代田地区】

臼井小	印南小	千代田小	間野台小	王子台小	染井野小	臼井中	臼井西中	臼井南中
10	6	10	14	12	9	10	9	10

【志津地区】

上志津小	志津小	下志津小	南志津小	井野小	西志津小	小竹小	青菅小	志津中	上志津中	井野中	西志津中
12	12	11	12	22	24	12	17	19	9	15	13

2024年4月1日時点

1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(2) 課題整理

～児童生徒の減少が及ぼす影響（効果と課題）～

文部科学省が示す「標準規模」を下回り、小規模校化していくことで『得られる効果』と『発生する課題』について、委員の皆様で意見交換をお願いします。

効果

課題

学習面

例) 一人一人に目が届きやすく、きめ細やかな指導が期待できる

例) 多様な考えや意見を出し合い、互いに学び合うという経験が得にくい

生活面

例) 学年を超えた交流が多く、年上・年下関係なく仲良くなりやすい

例) クラス替えがないことから、人間関係が固定化され、新しい人間関係を作りにくい

学校運営

例) 学校全体の意思統一が図られやすく、連携が取りやすい

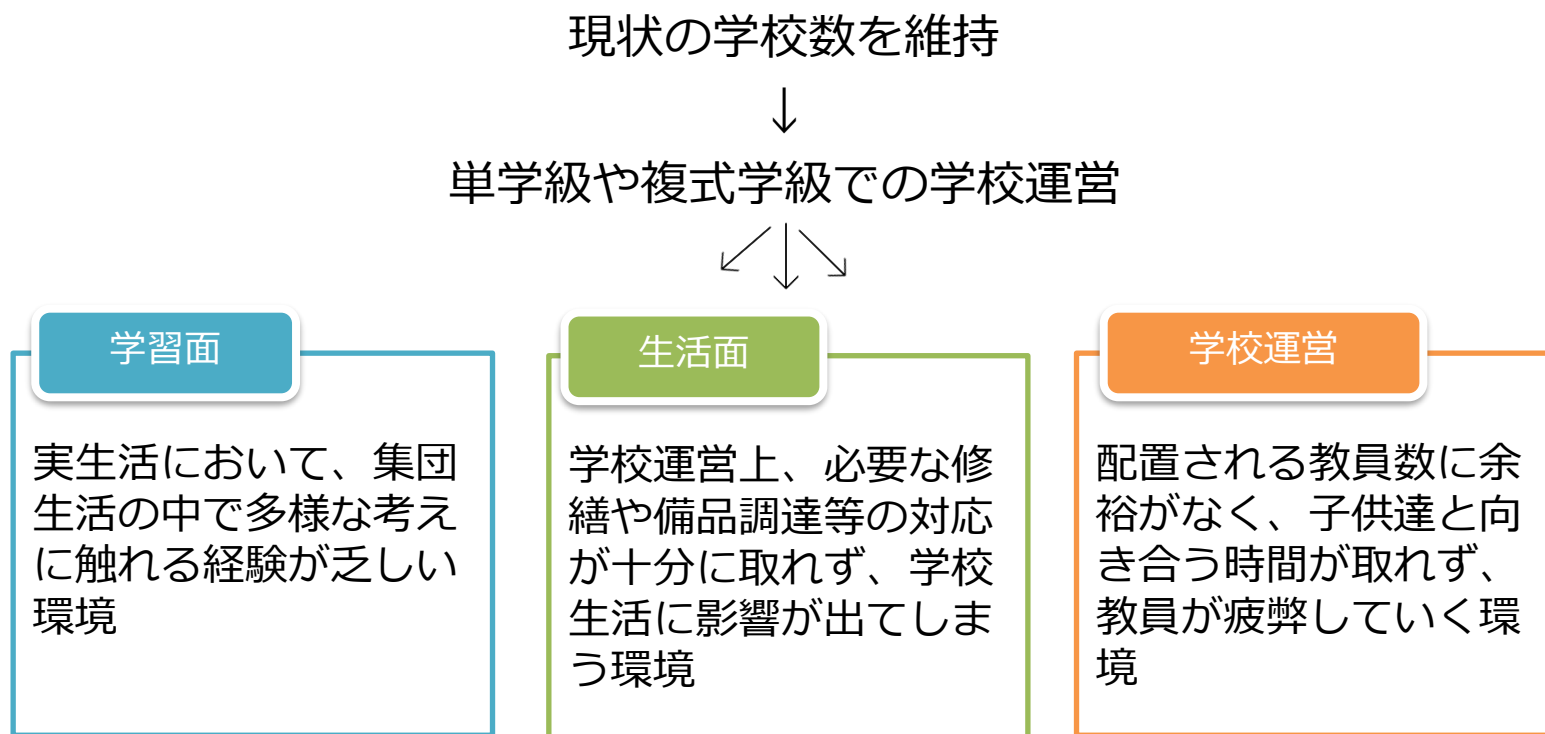
例) 教員一人の負担が大きい
例) PTA活動における保護者一人あたりの負担が大きい

1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(2) 課題整理

～『望ましい未来』と『避けたい未来』～

本市の児童生徒数の将来推計を見る限り、今後は児童生徒が大幅に減少していくことは明白な中、現状の学校数を維持していくと以下のようなことが想定され、これは本市の教育環境として、避けたい未来像の1つと考えられます。



1 児童生徒の減少に伴う影響に関すること

(2) 課題整理

～『望ましい未来』と『避けたい未来』～

今後は児童生徒が大幅に減少していくことは避けられないため、これを前提として教育環境を整えていく必要があります。本市の子供達や教員にとって、『望ましい未来』とはどのような姿か、前頁で例示した『避けたい未来』を参考に、委員の皆様で意見交換をお願いします。

望ましい未来

避けたい未来

学習面

実生活において、集団生活の中で多様な考えに触れる経験が乏しい環境

生活面

学校運営上、必要な施設修繕や備品調達等の対応が十分に取れず、学校生活に影響が出てしまう環境

学校運営

配置される教員数に余裕がなく、子供達と向き合う時間が取れず、教員が疲弊していく環境